

・「社会科で育てたい生徒」

「授業で学んだことから、現代社会のことをいろいろな立場で・視点で考えることができる生徒の育成」

「社会科は覚える教科」と生徒はよく言う。もちろんそれを否定はしない。でも覚えてさえいれば大丈夫という考え方になってもらいたくはない。授業を通して、自分が生きている現代社会がどのような見方・考え方で成り立っているかを理解し、社会に参画しようとする態度を育むことが大切であると考えている。そのようなことを念頭に置きながら授業を展開した。1年間の授業実践の中で、3年生の公民分野の授業を取り上げ、生徒Tの振り返りから私の学びをまとめていきたいと考える。

・授業実践より

<授業のねらい・展開>

日本で憲法改正の論議が起こって数年が経っている。ただ現状としては、まだ改正されてはいない。改正の中心は、「第9条 平和主義」に関する条文や、改正するための「第96条 改正の手続き」の条文が対象である。しかし、改正が必要なのはその条文だけでよいのだろうか。現行の日本国憲法が制定・公布・施行されて約75年の月日が流れた。その間に社会が大きく変化し、人間のあり方も変化した。社会科における公民的資質を養うためにも、今一度国の最高法規である日本国憲法の内容を深く読み込んでいき、憲法改正の是非について考えさせたいと思い授業を展開した。

導入では、各国の憲法改正状況を示し、そこから「憲法改正は必要なのか？」という課題を設定して授業を展開していった。「日本国憲法」では、『日本

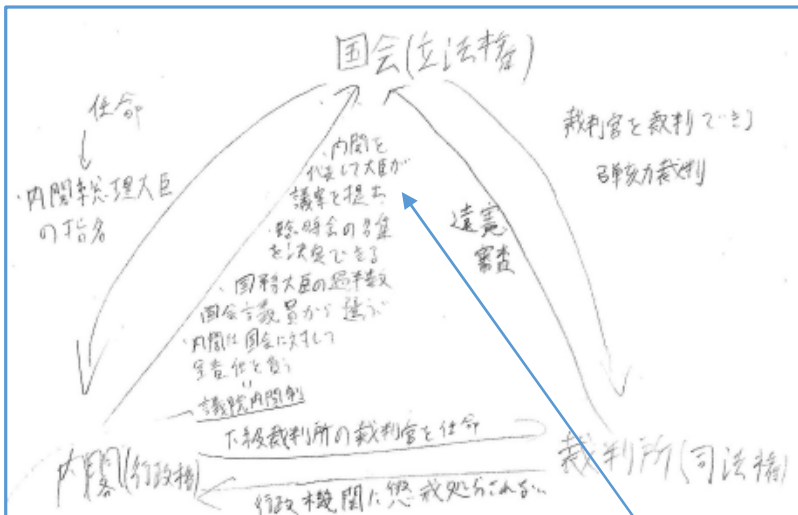
各国の（	）状況（2018年末）
アメリカ：6回	フランス：27回
ドイツ：62回	中国：10回
韓国：9回	日本：0回

国憲法ではどのような権利が認められているのか？』次の「政治のしくみ」では、『国会・内閣・裁判所にはどのような関係があるのか？』という課題を設定し、日本国憲法の条文から三権の位置づけや関わりについて関係図を作成する活動を通して理解を深めていった。

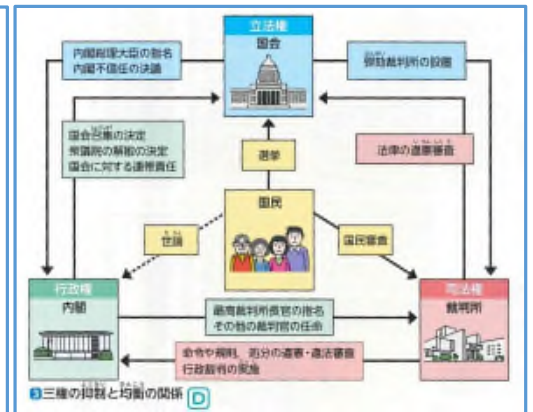
<単元構成>

過程	学習活動	○研究主題との関連
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・「政治」とは？ ・「三権」とは？ 国会・内閣・裁判所 <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>三権は、どのように関わり合っているのか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループになり、分担して国会、内閣、裁判所の役割やそれぞれの関わり合いを日本国憲法の条文から調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三権の均衡の意義に気づかせた。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた権力が同じの人同士で、説明内容の確認を行う。 ・自分の担当した権力を、グループのメンバーに説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたシートを予め配付し、質問等を考えた。
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・三権がどのように関わり合っているかを、グループで関係図を作成する。 ・教科書に掲載されている関係図と、自分たちで作成した図を見比べる。 	

・授業を通しての教師の学び



生徒 T が作成した関係図



教科書に記載されている関係図

生徒 T が作成した関係図の内閣から国会への→の内容に着目したい。「内閣を代表して大臣が議案を提出」とある。生徒 T は、記載されている第 72 条「内閣総理大臣は、内閣を代表して議案を国会に提出し、一般国務及び外交関係について国会に報告し、並びに行政各部を指揮監督する」から関係図に書き入れたのである。右の教科書に記載されている関係図とは違うことが分かる。生徒 T は、教科書の関係図と比較して、自分が作成した関係図との違いに気づき、「自分の書いた内容は間違っているんですか?」と私に聞いてきた。私は、思わず対応に困り、「教科書を作っている会社に問い合わせてみようか?」と返した。私自身、これまで授業を行って来て、この関係図については、教科書に掲載されている図をノートに写させ、いくつかの語句を説明するやり方であった。今回の授業のような展開が正解かどうかは分からないが、自分で考えて関係図を作りあげる。そこから出てきたさらなる疑問をまた追求していくプロセスが大切であるということに改めて気づくことができた。時間の都合でできていないが、教科書会社に問い合わせることを行っていれば、またそのプロセスにおいて学びがあったのではなかろうか。

この生徒 T は、授業評価の質問⑨「授業で学んだことから、現代社会のことをいろいろな立場で・視点で考えることができる」について、6月では「B」であった。2月に実施した時には、「C」に評価が下がり、自由記述の欄には「公民の力をつけたい。世の中のことを全く知らないから」とあった。自己評価が下がるのは、少し残念ではあるが、ただ自分を客観的に見ることができるようになってきたからではないかと考える。2学期期末テストの後に簡単な振り返りを書かせた。

公民の授業を通して、世の中のことを知れたし、少しずつ朝のニュースを見るようになりました。公民は現在のことだから、自分も知る必要がある。班で考えて意見を出し合って目標を作らせて、それに進めていったりした。目標を作った方がよい、仲間と考えた方がよいことを学びました。

生徒 T は、決して得意ではない。しかし、彼なりに考えて、自分の意見をもつことの意義を学んでいるようである。今回、取り上げた授業展開のように条文から意味を考えて関係図を作成していくプロセスによって、「ただ覚えればよい」という思考を変えることができたと思う。

今年度の授業では、「憲法改正は必要なのか?」という大きな学習課題で、日本国憲法と政治のしくみの単元を展開していこうと思っていたが、実際には最後学習課題に対して戻ることはできなかった。だから大きな学習課題の設定も含めて来年度は、授業を考えていくことができればと思う。3年生は、進度がテストに左右されるので、年度当初よりカリキュラムデザインをしていくことも必要となる。2月に行った授業評価では、6月よりも質問⑨の A の数は増えている。そのような生徒を一人でも増やしていくことができればと考える。また教科書に記載されている内容等について、生徒と共に話し合っていくことができる授業を展開していきたい。